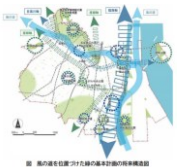


2025年6月に策定した「国土交通省環境行動計画」に係る実行計画として新たに「グリーンインフラ推進戦略2030」を策定。
本戦略の計画期間を**2030年度まで**とし、**定義や効果、特徴等を整理した上で国土交通省の取組を体系的に整理し2030年度までに目指す成果を設定。**

グリーンインフラの定義・効果

グリーンインフラとは、自然の多様な機能を活用した社会資本であり、将来にわたり持続可能で魅力ある国土・都市・地域づくり及びウェルビーイング向上に貢献するもの。

これは、人と自然の関わりから形成されるものであり、戦略的な計画、持続的な維持管理、幅広いステークホルダーの参画などを通じてより大きな効果の発現が期待できる。



戦略的な計画



持続的な維持管理



幅広いステークホルダー

自然の多様な機能

- ・ 生息地保全
- ・ 水源涵養
- ・ 雨水の貯留浸透
- ・ 水質・大気質の維持・改善
- ・ 温室効果ガスの吸収
- ・ 気温の緩和・調整
- ・ 騒音・振動の吸収
- ・ 防風
- ・ 防塵
- ・ 延焼の遅延や防止
- ・ 斜面崩壊の防止
- ・ 衝撃緩和
- ・ 遮蔽・遮光
- ・ 流木・漂流物の補足
- ・ 食料生産
- ・ 緑陰形成
- ・ 景観形成 等

インフラに活用

ウェルビーイングの向上

経済的効果

社会的効果

環境的効果

グリーンインフラの多様な効果

- ・ 不動産価値の向上
- ・ にぎわいの創出
- ・ 観光振興
- ・ 移住・定住・二地域居住等の促進
- ・ テクノストレスの軽減による生産性向上
- ・ 地域産業の活性化 等
- ・ 食料の安定供給
- ・ 心理的健康の増進
- ・ 身体的健康の増進
- ・ 防災・減災
- ・ 交通安全
- ・ 子育て、教育
- ・ 生きがいの創出
- ・ 地域コミュニティの形成
- ・ 地域への愛着向上 等
- ・ 生物多様性の保全
- ・ 健全な水循環の保全
- ・ 良好な生活環境の形成
- ・ 気候変動の緩和 等



生物多様性の保全



良好な生活環境



避難場所・防災拠点



暑熱対策



雨水貯留浸透



魅力的な景観



コミュニティ形成



不動産価値の向上

「グリーンインフラの活用が当たり前の社会」の実現を図り、2050年に向けて「自然共生社会」の実現を目指す。

グリーンインフラの更なる実装に向けた分野横断的な環境整備

- ①国民的な機運・理解の醸成 ②多様な効果の見える化 ③官民の取組を促進する環境整備 ④資金調達の円滑化 ⑤新技術・DXの活用 ⑥国際展開



グリーンインフラ官民連携プラットフォーム



GREEN×EXPO 2027

社会課題解決に向けたグリーンインフラの実装

- ①持続的で快適な都市・生活空間の形成 ②防災・減災 ③暑熱対策
④生物多様性の確保 ⑤地域経済の活性化 ⑥温室効果ガスの削減
⑦循環型社会の形成



都市緑化・道路緑化



流域治水との連携



ブルーインフラ